



# KAHF ニュースレター

〒606-8035 京都市左京区粟田口鳥居町 2-2 京都国際交流会館 3F  
財団法人 京都国際文化協会内  
京都ホストファミリー協会(KAHF)

## No.13

2014年3月発行

### 2014 年度行事予定

4月20日

- ・ ケーキパーティー

5月

- ・ 東山ハイキング  
(予定)

7月

- ・ 祇園祭船鉾拝観

10月

- ・ 大原 BBQ パーティー

11月

- ・ ハイキング  
(予定)

2015

1月11日

- ・ 新春親睦パーティー

3月

- ・ 総会ファミリーの集い



KAHFは1984年3月に設立され、本年30周年を迎えます。ご同慶の至りです。今日に至りましたのも、創設にご尽力頂いた先生方や先輩諸氏の一方ならぬ御貢献と御苦勞の結晶の賜物と感謝申し上げます。今後は、その功績を活かすべく、現有会員のファミリーが一丸となって、更なるKAHFの発展を担っていかねばなりません。

KAHFファミリーの皆様は、他国から苦勞を重ねて日本に来られた留学生への支援活動を心の底から「無私」の心境で、留学生が安心して勉学に励め、心身ともに健康的な生活を送って頂ける一助になればと、熱意を持って日々の活動に取り組んでおられます。その崇高な思想と行動こそが、KAHFの活動を持続させる原動力だと思います。

グローバル社会が進展する中で、多文化国際交流の必要性が益々高まりつつも、世界では非常に残念な事象が尽きることなく発生しています。人間は、科学技術においては目覚ましい進歩を遂げてきたものの、人々の心は自らの「利」のみを追い求め、諍いばかり生じており、嘆かわしい限りであります。「有言の驕り」と「無言の忍耐」と云う矛盾の克服こそが、相互理解への道程であるとの必然性を求めているのでしょうか。

「おもてなし」という優しさを、誇りと心に秘めながら「利己から利他への昇華」こそが、この奉仕活動に携われる幸せをも感ずるところであります。

KAHFの志を継承し、留学生や会員が更なる発展と成長を遂げて行かなければなりません。個々人の善意と良識に支えられての協働体であり、純粋な気持ちで、ただ留学生の笑顔を創りだせればとの、濁り一点も無き爽やかな互いでありたい限りであります。

今後とも旧来に増してのご協力とご理解を賜り、KAHFの活動が円滑に力強く歩めるよう努力いたします。

西村隆治

平素よりKAHFの活動にご尽力頂きありがとうございます。2013年度もお陰さまで行事や個々のお付き合いを通して留学生とも交流を深めることが出来ました。今年度の活動をまとめたニュースレターを制作しましたので、どうぞお受け取り下さい。このニュースレターはKAHFのホームページでもご覧頂くことが出来ます。

KAHF ホームページ URL : <http://kahf.web.fc2.com/>

## ・・・2013年度会務報告・・・

2013年度に74名の新しい留学生（No. 1721～1794）を受け入れて、HFとB/S会員（一部）をマッチングしました。詳しくは別紙資料をご覧ください。

2013年度に新たに10名のHF会員の入会がありました（HF-447～456）。よろしくお願いたします。また、6名の会員が退会されました。これまでの会員としてのご協力に感謝します。この結果、現在活動中のHF会員は128ファミリーとなりました。詳しくは別紙資料をご覧ください。

平成23年度に、日本人学生等を Brother/Sister として希望する留学生にマッチングする新しいプロジェクトを立ち上げました。現在までに29名の B/S 会員の参加を得て、留学生とのマッチングを致しました。これが新しいホストファミリーの形として今後発展することを期待します。

2013年度の共通行事として、

- ・ファミリー総会（レストラン ラ・シゴニュー、2013.3.16）
- ・ケーキパーティー（2013.4.21、京都大学生協吉田食堂）
- ・春のハイキング（2013.5.12、上賀茂散策）
- ・祇園祭船鉾参観とゆかた着付け教室（2013.7.14）
- ・タイ料理教室（2013.9.21、北区青少年活動センター）
- ・大原バーベキューパーティー（2013.10.20、龍池財団大原郊外学舎）
- ・秋のハイキング（2013.12.8、伏見稻荷大社）
- ・新春親睦パーティー・バザー（2014.1.12、京都市国際交流会館）

を催しました。留学生とファミリー、ファミリー間、留学生間の和気あいの交流ができた楽しい行事でした。

## ・・・・・・行事報告・・・・・・

### 2012年度総会(ファミリーの集い)

3月16日12:00～  
(岡崎 ラ・シゴニュー)

今年度の総会・ファミリーの集いは岡崎のレストランラ・シゴニューで開催しました。参加は44名でした。H23年度会務報告（谷垣代表）、会計報告（A：高橋、B：一瀬）の後、昼食をとりその後、京都大学工学研究科社会基盤工学専攻教授の木村 亮先生からの話題提供（人々と共に道を直す）をいただきました。先生のアフリカ、アジアにおける活発なNPO活動に圧倒されました。お話の後、ティータイムということで歓談しましたが、木村先生と会員の間の活発な議論の中、あっという間に閉会の時間を迎えました



## \*ハイキング 5月12日(日) 13:00~

植物園北門集合—深泥池—大田の小径—大田神社(カキツバタの野生群落)—社家(西村家庭園)—上賀茂神社解散



12日は、前日までの雨が嘘のような晴天に恵まれ、ファミリー28名、留学生と日本人学生39名、計67名の参加がありました。植物園北門前に集合して深泥池から大田の小径へ。大田の小径では、木漏れ日を浴びながら、雨に洗われた新緑の山道を皆さん元気に大田神社まで歩きました。市中の喧騒を忘れるほど静かな道ですが、学生同士やファミリーとの賑やかなおしゃべりが続いていました。神社では幸運にも天然記念物のカキツバタがまさに見頃でした。

次は静かな社家町を歩き、西村家へ。2班に分かれて家の中を見せて頂きました。心地良い風が吹き抜けるお部屋からかつては曲水の宴が行なわれた庭を見ながら一休み。当時の優雅な生活が偲ばれました。最終目的地の上賀茂神社前で解散。中の見学は自由行動にしました。道中は長い列になりましたが、様々な国の留学生同士が日本語、英語などで真剣にコミュニケーションを取っている姿が見られました。きっと友情の輪が広がった事と思います。皆の願が叶い、お天気も花の見頃も見事に一致した1日でした。お疲れ様でした。

## \*ゆかた着付け教室

7月14日 14:00-16:30  
(ウイングス京都 2F和室)

着付け講師の掛水さまのご指導と、ファミリーのみなさまのお手伝いで、無事終了しました。留学生の皆さんのゆかた姿がとても素敵でした。

小物類の忘れ物が多かったので、持ち物や下着の案内を、来年は改善したいと思います。

申込者30名

(うち、男子4名。欠席者6名)

ファミリー14名



## \*祇園祭 船鉾参観 7月14日(日) 17時~

炎暑ではと心配した恒例船鉾参観も雨の心配に変わりましたが何とか時折の小雨ですみました。

56名の留学生、24名のファミリー参加のもと、船鉾参観を無事終える事ができました。

蒸し暑い中お世話いただいた皆様ありがとうございました。

色とりどりの浴衣姿の、留学生達はきっとよい思い出を作ってくれた事でしょう。





**\*料理教室：タイ料理** 9月21日(土) 12時～15時  
(北区青少年活動センター)

北区青少年活動センターにて21名参加(内留学生7名)のもとタイ料理教室を行いました。

タイ料理2種パッタイ(タイの焼きそば)とタレーパッポンカレー(シーフードをいためたカレー)を作りました。会場の設備の都合上3グループに分かれて作りました。講師学生はタイ留学生のTさん、レシピも用意してくれましたので彼女の指導の下、各グループ並行して手際よく作っていきました。パッタイでは麺がなかなか柔らかくならないので水を加えながら各グループの出来具合を比べつつ作りました。最終的にはどのグループもうまく作れました。2種それぞれ出来上がるたびに試食会を行いタイ料理に舌鼓を打ちました。いずれも辛い料理でうちでも簡単に作れる料理でした。お茶はレモングラス茶等タイのお茶を提供しました。



世界の料理



・・・タレーパッポンカレーのレシピ・・・

\*タイのシーフードレストランの定番のメニュー\*

**\*材料(4人前)**

- シーフードミックス・・・・・・・・400g
- 青ネギ・・・・・・・・3本
- 玉ねぎ・・・・・・・・1個
- 卵・・・・・・・・2個
- 油・・・・・・・・適量

(調味料)

- カレーパウダー・・・・・・・・大1
- オイスターソース・・・・・・・・大2
- ナンプラー・・・・・・・・大1
- 砂糖・・・・・・・・大1
- チリインオイル(又は醤油)・小2



**\*作り方**

青ネギを3cmに切り玉ねぎも2～3cmにざっくり切る。

シーフードミックスを解凍し、水気を切っておく。

調味料に卵を入れよく混ぜておく(A)。

- 1：フライパンを熱し、油を入れシーフードミックスと玉ねぎを炒める。
- 2：玉ねぎに火が通ったら、卵を混ぜた調味料(A)を入れる。
- 3：卵に火が通ったら、ネギを入れて炒める。
- 4：皿にご飯を入れ出来たカレーを盛りつける。

## \*大原BBQパーティー 10月20日(日)11:00～ (龍池財団大原郊外学舎)

恒例秋の大行事「大原BBQ」は雨に見舞われましたが、ファミリー32名、B/S2名、留学生49名、計83名の参加者で賑わいました。軒下で肉を焼く男性達、キッチンでカレーの支度をする女性達、沢山の留学生も手伝ってくれて、とてもスムーズに準備できました。もちろんいつもの様に忘れ物だらけでしたが、機転の効くスタッフのお陰でなんとか過ごせました。皆は畳の部屋でピンゴをしたり、国別歌合戦をしたり、和やかな中、いつも通り2時過ぎには終了出来ました。留学生の中には用意する前はベジタリアンだったのにいつの間にかモスリムになってしまった男性もいて笑っちゃいました。黙々と手伝って下さった会員の方や、留学生、そしていつものスタッフ、皆様お疲れ様でした。

(H,N)

今年のメニューは

- 1：バーベキュー(普通用とイスラム用)
- 2：野菜カレー(白米約8kg)
- 3：果物(柿とみかん)



## \*秋のハイキング 12月8日(日)13:00～ (伏見稲荷大社)

晩秋の伏見稲荷、総勢21名の参加(学生8名)で楽しい日曜の午後を過ごしました。近くに住んでおられるファミリーなど日曜午後ということで出やすかったのでしょうか、思った以上の参加でした。学生も初めての参加は一人だけで二回目以上がほとんどでした。

伏見稲荷は、千本鳥居や日本神道の本山(?)の一つとすることで最近外国人に人気沸騰中、大変にぎわっていました。千本鳥居やまだ残るもみじの前で写真を撮りあい、のんびりと散策しました。でも今回はファミリーの平均年齢が若くてみんな結構足早に登りました。重かる石では願い事を胸に、灯籠石を持ち上げていました。イタリア人学生は日本の宗教を研究している、シャーマニズムに興味があると行ってました。帰りはほとんどの方が東福寺に下りました。まだまだもみじが綺麗で、通天橋見学された学生たちもいて境内で流れ解散しました。天候にも恵まれて、いい交流が出来ました。(K,N)





## ・・2014年KAHF新春親睦パーティー・・

桑原様の音頭で

乾杯！



マレーシアの美声♪



谷垣代表のあいさつ



♪イランの民族楽器演奏



マダガスカルの美声♪～



歓談



- ・日時 : 2014年1月12日(日) 14:00~16:00
- ・場所 : 京都市国際交流会館

KAHF 恒例の新春親睦パーティーが今年も賑やかに開催されました。留学生、B/S会員の参加 100 名以上、ファミリー73名、見学者3名、計約 180 名の参加がありました。西村様の司会、谷垣代表の挨拶、桑原様の乾杯の音頭の後会食。留学生同士、ファミリー同士、留学生とファミリーなど、久々の再会もあり賑やかに話が弾みました。

今年はイランの珍しい民族楽器セタールの演奏、会場も楽しく参加したマダガスカル学生の歌、マレーシア学生の歌が披露されました。その後はロジャー奥田様の軽快な司会で、子供達お待ちかねのお年玉タイム。賑やかな交流が続く中、残念ながら時間となり、バザー会場へ。お陰様でバザーも成功裏に終了しました。

留学生家族からファミリーへ届いたお礼のメールです。(1部省略)

Please convey our thanks to the KAHF Association for such a nice party. I met many of my nihongo-class friends. Such gatherings show the kindness of Japanese people, and for foreigners. I think Japan is the best place to live

\*2015年新春親睦パーティーは 1月11日(日)です。

## 私と京都

テイ・クアンチュン(マレーシア出身)

東南アジア内で家族と短期間の旅行以外、私の人生最初の25年間はずっとマレーシアで過ごしていました。旅行の観点ではマレーシア人にとって、日本は自然に恵まれた美しいところであり、独自のユニークな文化を享受することができる国です。日本人の礼儀正しさ、交通機関の利便さなどという美点はよく知られています。しかし、同じアジアの国でも言葉の壁や通貨はなかなか日本に来ることが出来ない理由になっています。私は機械工学の専門で、現地の大学を出てからすぐ仕事に就くことができ、安定した生活を送っていました。その後、日本の大学院に進学する機会が与えられました。先端技術開発が盛んである日本にとっても興味があり、地元を離れてもっと自分の視野を広げたいという気持ちがあり、結局自分の安心領域から出て当時不案内な日本に留学しました。留学先を日本の京都にするきっかけは大学の友人でした。彼は大学の同級生で、大学を出た後も同じ会社で勤めていましたが、私より一年早く仕事を辞めて京都大学に入学しました。彼から留学生活特に京都での生活を聞かせてもらいました。勉強の時間以外、春に鴨川でお花見をしたり、夏に保津峡でラフティングをしたり、秋に比叡山の延暦寺で紅葉狩りをしたり、冬に雪で覆われている金閣寺を訪れたりした写真を見せてもらおうと、何かうらやましくて、京都大学を受験しようと思いました。幸い大学に受かって初めて日本に来て、京都で過ごすことになりました。最初、私は宇治市にある大学の国際交流会館に住んでいました。大学院の研究室は京都市の吉田キャンパスにあり、毎日の通学時間は往復約2時間でしたが、そこに半年間住んでいたことはよかったです。丘の上にある部屋の窓から見る自然と景色はきれいで心地よいものでした。それに、8月の始めに宇治川花火大会が行われる時、部屋からもはっきり見えて素晴らしかったです。その後、私は哲学の道の近くにある和室の部屋に引っ越ししました。床はたたみで、シャワーではなくお風呂につかることになって、正に日本人らしい生活ができました。



小学校と公園が部屋のすぐ近くにあつて、放課後子供たちの遊ぶ姿、特に秋は公園内の銀杏の葉っぱが黄色に変わつて、とても気持ち良かったです。週末には、朝早く起きて大文字山に登つて日の出を見てそこから哲学の道に沿つて南禅寺までジョギングしていました。哲学の道では特に春の桜の光景に驚き、夏は暗夜に蛍が見えました。日本に来るのは良いことばかりではありません。特に、日本語がほとんど分からなくて周りの地域の人と交流できませんでした。その日本語を勉強する経験は私にとってなかなか面白いと思いましたが、マレーシアで生まれた華僑の私は学校で英語、マレー語、中国語を習つており、文法や要素には多少共通点がありますが、日本語はまったく違います。それに、日本語には、尊敬語や謙譲語という要素があり、それを身につけるのはとても難しいです。しかし、それは独特な社会的上品さの直接的反映であり、日本語でコミュニケーションをすると自分がすごく上品に感じられます。教室では日本語の標準語しか学んでいませんが、京都では多くの方が関西弁や京都弁で喋っています。それは更に状況をややこしくしますが、ここにいればいるほど現地の文化が理解でき、方言で話すのは本当に「おもしろい」です。私は4年も京都に住んでいましたが、あっという間でした。三月に卒業してしばらく日本で仕事に就きますが、京都を離れることに悲しみの念を禁じえません。私にとって日本は京都、京都は日本であり、第2の故郷のようなものです。お世話になりました。おおきに！(2013年3月)



## 寄稿文

### ホストファミリーからのコメント

2009年4月マレーシアより来日し、京都大学大学院工学研究科で研鑽を積み今春卒業、日本企業に就職を果たした Tey, Kuan Chung 君が京都を離れるにあたって一文を送ってきてくれました。京都での楽しかった経験を生き生きとした文章で綴っています。また日本語へのユニークな感想も思わずはっとさせられました。この4年間彼とはKAHFメンバーとして交流を楽しむことができました。文中の和室には何度か呼ばれてマレーシア風味の鍋料理をご馳走になったりした楽しい思い出が尽きません。健闘を祈ります。

## 私は「愛子」と申します 愛子 ウルフィア ラクミ(インドネシア出身)

私は1977年に東京で生まれて「AIKO」と日本を名付けられたインドネシア人です。父はそのとき、仕事で日本にいました。でも、1981年に父の日本での仕事は終り、3才の私は家族とともにインドネシアに帰りました。小さな私は、その3年間住んでいた日本のことは何も覚えていません。私は一生、他人から質問されるでしょう「どうして“AIKO”という日本の名前なの？日本人ですか、ハーフですか？」父は、私に「“愛育病院”で生まれたから“愛子”という名前を付けたんだよ」と言いました。そのときの私には理解ができませんでした。既に亡くなっている父にもう聞くことはできません。しかし、父の言ってくれた「あなたの名前の意味は“愛の子”だよ。だから愛情のある子になってね」と言う言葉が頭から離れません。そして2011年、日本を離れ、30年後の今、私は奨学金を得て、京都造形芸術大の修士課程で勉強しています。このチャンスで、私の3才までの記憶を探す『Aiko 1977～1981年。空白の記憶を再構成する試み』というテーマで、今研究しています。作品制作では、新たな記憶という物語を構成します。一例をあげると、私を取り上げてくれたお医者さんを探してみました。私はお医者さんに会うために、色々な方法を試しました。直接に愛育病院に行き知らない人への質問から、お医者さんの本を出版したの編集者に至るまで、私の探究心は及びました。彼らへの手紙は自筆で心込めて筆で書きました。来たばかりの私にとっては大変難しい作業でした。そんなとき、KAHFは私に素敵な家族を紹介してくれました。とても幸運です。



私のファミリーは電話をすると、「は～い♪」と返事してくれます。悩みことがあるときに「愛ちゃんは家族だからいつでもいらっしやいよ！」と温かく迎えてくれます。作品制作プロセス中に良いことも悪いこともあり、私はファミリーと一緒に過ごします。そういう大切な結び付きができたことに、KAHFに感謝しています。

ついに私の夢、私を取り上げてくれたお医者さんに会えることができませんでした。私はお医者さんに「私が生まれて初めてお会いした人は先生です。その時の先生の手を感触は覚えていませんが、あなたが導き出してくれた命を大切に生きて行きます。」と直接に伝えられたので、私は幸せです。

私は日本滞在中にもっともっと、新たな記憶のため、様々な結び付きを体験したいです。そのため、私の次の博士課程の作品は『私の出身地と私の育った場所との間に橋を架ける試み』となっております。

私なら、日本とインドネシアとの間に心の橋を架けることが、できるかな？

もちろん！私は「愛子」と申しますから、できます。



### 編集後記

今回初めて料理教室のレシピを載せてみました。参加されなかった会員の皆様も世界の料理を楽しんで下さい。

今回の編集では、やはりおせっかいなwordに苦しめられました。

H.N

## イフタールフェスティバル

阪田敦子

平成25年8月3日、年に1度のイフタールフェスティバルが「みやこめっせ」で催された。イフタールとはイスラム教徒がラマダーンの期間中に日中は断食をして、日没後その日初めて食事を摂るのを祝ってご馳走を食べることをいうそうだ。私達夫婦はホストファミリーを担当しているパキスタンの留学生から招待され、断食もしていないのにこのパーティーに参加させてもらった。夕方6時58分の日没と同時にパーティーが開始され、お祈りやお話が英語、日本語で語られた。毎年京都市長の挨拶もあるそうだがこの日は市長の都合でなかった。続いて大広間には約20ヶ国のムスレムのお料理が国別のテーブルに並べられ、千人を超えるムスレムとその関係者が集まった。各国の民族衣装で着飾った女性の方たちが手造りのお料理を運んできてお接待された。留学生の奥さん達も大勢おられたようだ。私達は各テーブルを順に廻って美味しいお料理を沢山頂いた。人々は食事をしながら楽しそうにおしゃべりに夢中だった。並べられたお料理は千人でも食べきれない程の分量で、パーティーは延々と続いていた。私達は留学生に厚くお礼を言って8時ごろに会場をあとにした。この様なイスラムの楽しいお祭りが毎年京都で行われていることを初めて知った